【読楽】017 「初学文宗」を読む ＊読楽箇所＝本文冒頭部

［概要］

初学文宗（明和6年）

【判型】半紙本1冊。縦242粍。

【作者】徳川義直（源敬公・武衛公）作。白木興常書。

【年代等】慶安3年作。延宝4年5月、成田宜長書。延宝7年4月、并河主静跋。明和6年1月、白木興常書。

【備考】分類「教訓・教育」。現存諸本により異同が少なくないが、底本によれば、「学ノ事ハ難キニアラズ。人生ノ日々ニ用ヒ行フ処、是皆学ノ道ナリ」として学問が万人必須と諭し、「人初テ生レシヨリ七十以上マデノ間、心ヲ正シ身ヲ修メ、国家ヲ治メ、其外、官職・礼法・郡旅・葬（祭）ニ至マデ仮名ヲ以テ是ヲ書付ケ」た教訓書。冒頭に胎教から70歳までの随年教法あるいは生涯指針の大要を説く。短文ながら為政者の撰作であり、近世初期の年代別教育論として注目される。続いて、「孝行之事」「身ヲ修ムル事」「軍之事」「国ヲ治ル事」「礼法之事」「官位之事」「神社之事」「葬之事、附祭之事」「惑之事」の九章について簡潔明瞭に記す。育児書としても本書は異彩を放つ存在だったが一般にはほとんど流布せず、また、現存写本も極めて限られ、後続の育児書への影響も見られなかった。なお、作者は江戸時代前期の大名で、慶長5年11月28日生、慶安3年5月7日没。51歳。本姓、源。松平氏。名、初め義知・義利・義俊、のち義直。字、子敬。諡号、敬公・武衛公。徳川家康の九男。尾張藩初代藩主。大阪城西丸に生れる。慶長8年、甲斐府中藩主、同12年、尾張清洲に転封。その後も所領を拡大し、尾張・美濃・三河・信濃・近江・摂津にまたがる61万9500石を治める。草創期の藩政を推進する一方、儒学・神道・軍学・音楽にも関心を持つ。蔵書家としても知られ、また亡命中の明人陳元贇らを保護した。なお、『名古屋叢書』1巻「文教編」、『尾張家言集』（尾張徳川黎明会編）に翻刻されている。

［参考］ ＊小泉「藩主が綴った生涯指針」（月刊武道連載記事より抜粋、一部改編）

●殿様が領民に説いた人生70年の計

江戸時代の年代別教育論は、様々な身分・職分で展開した点が大きな特色で、この連載でも順次取り上げるが、今回は、大名が書いた点で異色、かつ、最も早い年代別教育論である『初学文宗』を紹介する。著者は徳川家康の第九子で尾張藩初代藩主の徳川義直（1600-50）で、慶安3年（1650）に書かれた。数少ない伝本間でも多少の異同があるが、家蔵の明和6年（1769）筆、白木興常重写本の冒頭は次の如きである。

> 夫レ学ノ事ハ難キニアラズ。人生ノ日々ニ用ヒ行フ処、是皆学ノ道ナリ。今ノ人、此理ヲ知者少シ。学問ト云ヘバ、愚ナル者ノ成ベキ事ニアラズトテ、聞ベキ事トモセズ。故ニ愚ナル者ハ弥愚ニシテ道ヲ知ル事ナシ。我、是ヲイタミ思フ故ニ、人初テ生レシヨリ七十以上マデノ間、心ヲ正シ身ヲ修メ、国家ヲ治メ、其外、官職・礼法・軍旅・葬（祭）ニ至マデ仮名ヲ以テ是ヲ書付ケ、一巻ト成シテ是ヲ『初学文宗』ト名付ク。蓋シ初学ノ人ヲシテ大道ノ一端ヲ知シメント思フ心也。

すなわち、「学問は決して難しいものではなく、日々の生活が全て学問の道である。だが、愚者には学問は無縁とする偏見のため、愚者は学ぼうとせず、ますます愚かになって道から遠ざかる。これが残念でならないため」本書を著したとする。これに続けて、胎教から70歳に及ぶ生涯指針が登場する（以下は要旨）。

○妊娠中＝行住坐臥に気をつけ、珍しい物や怪しい物を食べず、怪しい色を見ず、淫乱の音を聴かず、心を動揺させず、夜は正しい詩や道理にかなった物語を聴く。

○1～5歳＝怪しい物や淫乱な音を見聞きさせない。淫乱な歌を禁止し、右手を使うことを教える。

○6～10歳＝怪しい物語を聞かせず、怪しい物を食べさせない。数字や読み書きを教える。

○11～15歳＝弓馬の道を教え、学問をさせる。人と争わず、傲慢な心を戒め、淫乱を堅く戒め、礼法を習わせる。父母への孝、主君への忠、朋友への信を教え、家臣の使い方を教える。

○16～20歳＝衣服を飾らず、正直者と交際し、邪佞の人に近付かない。奇怪を好んだり、古来の教えを批判したりすることを禁ずる。特に禅宗の信仰を禁ずる。（中略）血気盛んな年頃で些細な事から過ちを犯しやすいので気をつける。遊山翫水の楽しみ、人を翫ぶこと、酒の多飲を禁ずる。

○21～30歳＝身を正し、道理を弁え、人の言葉を吟味し、悪へ近づかぬように気をつけ、善言を真摯に受け止め、人の諫

めに腹を立てない。とにかく善悪の弁えに徹し、私欲・物欲・人欲に心奪われぬようにせよ。

○31～40歳＝万事一通り学び終える年代のため、必ず傲慢の心が生じる。高慢の心を抑え、ますます道理を悟って身を修めよ。

○41～50歳＝人生の盛りなので、十分に慎み悪名を取らぬように注意せよ。

○51～60歳＝老年に入っても学問を続け、一事・一言でも人の教えを学ぶように心懸けよ。

○61～70歳＝物事に差し出がましくなり、時代に合わない事を言い張りがちなので十分慎む。物忘れしやすいので国政に関わってはならない。君主の命令ならば、老い耄(ぼ)れている点を十分弁え、慎重に行動せよ。70歳は公職を辞退すべき年齢である。

以上には『小学』などの影響も見られるが独自の記述も少なくない。ちなみに、『小学』や貝原益軒の「随年教法(ずいねんきょうほう)」(『和俗童子訓(わぞくどうじくん)』)と比べると(表参照)、『初学文宗』の次の特色が浮き彫りになる。

①誕生前の胎教から隠居するまでの全生涯の基本的心得を説く

②学習内容の詳細には触れず、生涯学び続ける重要性を強調

③奇怪・異様・淫乱・邪道なものを遠ざけ、善なるものを志向

『初学文宗』は軍事・治国・官位など庶民と縁遠い記述も含むが、基本的に万民に対する教訓書であることは序文からも明らかである。義直は「日々の生活こそが学問」とし、徳性を養う人間教育こそ学問の本道であるとした。人間教育には始まりはあっても終わりはない。領民の全てがそれぞれの立場から「生活即学問」という意識で学び続けることを期待したのである。

義直は、本書の執筆後間もない慶安3年5月7日、江戸藩邸で没した(享年51)。残念なことに、『初学文宗』は秘蔵され、大正期以前に世に出ることがなかった。だが、益軒よりも60年も早い先駆的な年代別教育論であり、何より藩主自らの啓蒙的著作として特筆すべきである。

『初学文宗』『和俗童子訓』『小学』の年代別教育論(教育内容)

年 齢	初学文宗 1650年	和俗童子訓 1710年	小 学 1187年
1-5歳	【1-5】怪しき物・淫乱な音の禁止／右手使用	【1-5(男女)】善事を見聞きさせる／好みや習いを選ぶ／淫欲・淫楽・浪費・無益な遊芸の禁止(無害な遊びは自由)	【1-5(男女)】子守・侍女等の吟味／右手使用／男女に適した返事
6-10歳	【6-10】怪しき物語・怪しき食物の禁止／数、読み書き	【6(男女)】数・方角／素質により6～7歳より仮名の読み書き、往来物／尊長への礼、尊卑・長幼の別、言葉遣い	【6(男女)】数・方角
		【7(男)】男女の別(席・食器)／礼法、仮名の読み書き、読書 【7(女)】仮名・漢字、古歌(風雅の道)／初めは名数・短い語句、その後『孝経』首章、『論語』学而篇、『曹大家女誡』等の読書	【7(男女)】男女の別(席・食器)
		【8(男)】礼儀(起居振舞、尊重・客への応対、応答・言葉遣い、給仕方、食礼、茶礼等)／門戸出入・着座・飲食時の年長者への礼／わがまま禁止／漢字(真書・草書)／習字(能書による指導・大字から練習／短い語句の暗誦／才能により8～14歳で「小学」「四書」「五経」等の読書	【8(男女)】礼儀／門戸出入・着座・飲食時の年長者への礼(徳行の初歩として長者への謙譲)
			【9(男女)】月日の数え方
		【10(男)】外師による五常・五倫の概要、聖賢の書／10歳から『小学』『四書』『五経』の読書と文武の芸 【10(女)】家庭内での紡績・裁縫／小歌・浄瑠璃・三味線等禁止／風雅の道	【10(男)】外師・下宿による文字・算術・作法／絹服禁止 【10(女)】家庭内で女師による温和・柔順(婉娩聴従)の躾／婦功(紡績・裁縫)・祭祀・礼の補助
11-15歳	【11-15】馬術・弓術／学問による徳性涵養(人との争い・慢心の禁止)／淫乱禁止／礼法／忠孝、朋友の信、家臣を使う道		【13(男)】音楽・詩の読誦、勺の舞
		【15(男)】義理中心、修身・治国の道 *20歳迄に『小学』『四書』等の大義に精通	【15(男)】象の舞・馬車御法 【15(女)】成人(笄着用)
16-20歳	【16-20】華美な衣類の禁止／正直者との交際(邪佞の人を避ける)／奇怪事・邪道・禅宗の禁止／遊山翫水・飲酒の制限	【20(男)】幼心を捨て、成人の徳に従い、広く学び、篤く行う	【20(男)】元服／成人の礼(生活規範・国法・慣習法)／大夏の舞／孝弟実践／知識・見聞の吸収 【20(女)】結婚(喪中なら23歳)
21-30歳	【21-30】身を正し理を明らかにする／人の言葉を吟味し悪事を避ける／善言・諫言に従う		【30(男)】結婚／公務担当／自由に学び、良友と交わる
31-40歳	【31-40】慢心抑制／道理を悟り身を修める		【40(男)】仕官(政治に関与)
	【41-50】悪名を取らぬように注意する		【50(男)】一官の長に任命される
51-60歳	【51-60】学問を継続		
61-70歳	【61-70】差し出口・不適切な発言禁止 *70歳で公職辞退		【70(男)】官職を辞し隠居